

NISSHA 株式会社

「2024 年 12 月期第 1 四半期 WEB 決算説明会」

質疑応答の要旨

(2024 年 5 月 9 日開催)

Q1. Q1 実績について、セグメントごとに想定通りだった部分、上振れた部分を教えてほしい。

A1. 産業資材事業は、加飾のモビリティ向けは想定通り、加飾の家電向けは想定をやや上振れ、蒸着紙も想定より上振れた。デバイス事業は、タブレット向けはほぼ想定通り、業務用端末が上振れた。メディカルテクノロジー事業は買収した企業の業績貢献があった。

Q2. 産業資材事業の蒸着紙のサプライチェーン在庫の調整は解消したか。

A2. 在庫調整はほぼ解消して需要は戻ってきた。当社のサプライチェーンの川上にある用紙メーカー、川下の加工メーカーからも同様の感触が得られている。

Q3. デバイス事業のタブレット向けの需要予測は 3 カ月前と変わっているか。

A3. 3 カ月前は Q3 以降の需要が不透明であり、Q2 が需要のピークと見ていたが、Q3 も Q2 と同じ水準の需要が続く見込み。生産稼働も Q3 は Q2 と同程度になる見込み。

Q4. メディカルテクノロジー事業の Q2 営業利益の予想は 7.5%だが、この水準は持続可能か。またアップサイドはあるか。

A4. 7.5%は持続可能な水準。ただし、7.5%がこの事業のあるべき利益水準ではない。さらなる向上を目指さなくてはならないと考えている。

Q5. メディカルテクノロジー事業で買収した Isometric の Q1 の利益への貢献はいくらか。

A5. EBITDA で 1 億円程度のプラス影響。

Q6. メディカルテクノロジー事業で資産買収した Print Media は、2024 年の業績にどの程度貢献するか。

A6. 5 月から連結する。2024 年の売上高で 6 億円程度、利益で数千万円のプラス影響を見込んでいる。

Q7. 為替感応度はどの程度か。

A7. 通期での為替感応度は、1 円/米ドルの変動ごとに営業利益で約 80 百万円。